

田原中だより

令和 元年度 全国学力・学習状況調査検証報告

教科	国語	数学	英語
田原中	100	97	106
府	96	97	100
国	100	100	100

◎全国を100として本校と大阪府・全国を比較しました。

ところで、平均正答数でみると

教科	国語	数学	英語
田原中	7.3/10	9.3/16	12.5/21
大阪府	7.0/10	9.3/16	11.8/21
全国	7.3/10	9.6/16	11.8/21

となり、大阪府全国と比較した場合、数学で全国よりやや低かったものの国語で全国と同じ英語においては大阪府・全国を上回りました。

次に、教科別に成果・成果のあった取り組み・課題・課題解決に向けた取り組みを紹介します。

国語

国語の全体の平均正答率は本校73%、大阪府70%、全国72.8%である。領域別に見ると、「書くことに関すること」は正答率が高い傾向、対して「読むことに関すること」は低い傾向にある。

正答率が高かった問題は、「話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する」、「語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する」といった内容だった。これは、全教科を通して日々の話し合い活動が活発に行われている成果だと考えられる。今後も、相手に伝わりやすい言い方を工夫したり、時々に応じた表現を工夫したりできるよう指導していく。正答率が低かった問題は、複数の資料から内容を読み取る問題である。資料を読み取る問題は慣れも大きいと考えられるので、今後授業や定期テストで取り組ませていく。また、短歌の鑑賞も低かった。無答率がほとんどないという結果がある中、鑑賞が低いところから、書くこと自体に抵抗はないものの、文章の構成や展開を意識しながら自分の考えをまとめる力がないことがわかる。書いた文章を評価し合うなどして様々な文章に触れさせ、説得力のある文章を書ける力を付けていきたい。

数学

数学の全体の平均正答率は本校58%、大阪府58%、全国59.8%である。

本校の正答率の高い問題は「ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ」と「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する」であった。数量や図形などについての知識・理解について反例の意味を理解して選択できた生徒が一定数いたことが推測される。また資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる生徒が多かったと推測できる。一昨年度からの取り組みである、「伝える力を育むこと」を意識した授業を展開できた結果が少しずつ現れていると推測される。問題演習時間を確保し、熟考⇒深い学びにつながるように今年度も継続して取り組んでいます。

また反対に「反比例の表から式を求める」では府平均から見ても5.8ポイントも小さかった。数学的な技能について関数に対する苦手意識を持った生徒が少なくなく、また比例と反比例の式の違を理解していない生徒も多くいることが、誤答率からも読み取れる。教科会を通して、これらの力を身につけることができるような授業展開を模索し、家庭学習課題や演習時間などを考えていくことが必要である。

英語

英語の平均正答率は本校60%、大阪府56%、全国56%であった。本校対府、対全国共に107%である。4技能別に見ると、本校は聞く力が弱い傾向にある。NRTテストでも聞く分野は弱かったため、リスニング力向上のために授業中練習を増やしていく必要がある。読む力・書く力は共に全国の正答率に比べ5.2~5.3%上回っている。家庭学習のプリントやBノートが読む・書く力をつけていることにつながっていると考えられるが、自由に英文で表現する問いは苦手意識が強く、あまり力がついていない。今後は書くテーマを示し、まとまった英文を書く力も身に付けさせたい。

参考数値ではあるが、話すことについては全国正答率が30.8%に対し、本校は25%であった。授業でペアやグループで話す活動は毎回行うようにしているが、すぐには結果につながらない。今後も継続し、英語で話す機会を毎回作ることで力をつけさせたい。

